

## 平成 28 年度 第 1 回帯広市学校給食センター運営委員会 議事概要

日 時 平成 28 年 6 月 1 日（水）10：00～12：30

場 所 帯広市学校給食センター 研修室

出席者 【委 員】近藤委員・武田委員・野村委員・大和田委員・通山委員・伊藤委員・  
福士委員・高橋委員・立川委員・山崎委員・秋元委員・耕野委員  
【事務局】八鍬教育長・嶋崎部長・服部センター長・山名副センター長・石田主幹

### 1. 開 会

### 2. 任命状の交付

4 名の新任委員に任命状を交付。

### 3. 教育長挨拶

学校給食は学校給食法に基づき実施されてきたが、孤食・欠食児童生徒の増加等、環境の変化により学校給食の役割は大きく変わってきている。

また、学校給食は「生きた教材」とも言われ、帯広市においても食育に力を入れてきている。今後も栄養教諭・食育指導専門員・家庭・地域と連携して取り組んでいく。

安全・安心で栄養バランスと量・質ともに充実した魅力ある学校給食が提供できるよう取り組んでいきたい。

### 4. 議事

#### (1) 副会長選出

無江副会長の退任により、新副会長を選出。委員からの推薦により武田委員に決定。

#### (2) 運営委員会の役割について

(事務局からの説明要旨)

帯広市学校給食センターは、帯広市学校給食センター条例第 5 条により、教育委員会の附属機関として設置。役割としては、教育委員会の諮問に応じて答申し、又は必要な意見を具申するものとする、となっている。

また、帯広市学校給食センター条例施行規則では、給食物資小委員会・給食献立小委員会の設置と調査審議事項について規定している。

(委員からの質問・意見等はありませんでした)

#### (3) 平成 28 年度予算概要

(事務局からの説明要旨)

平成 28 年度予算の概要について報告する。歳出の合計額は、11 億 3222 万 6 千円。そ

の内訳は、給食センターの維持管理費用など管理運営業務に係る経費が 4 億 8689 万 3 千円、賄材料費など学校給食の提供業務に係る経費が 6 億 4260 万 3 千円、学校給食における食育の推進事業に係る経費が 223 万円、地元産食材活用推進事業費として 50 万円となっている。また歳入は、学校給食費収入（現年度）6 億 4260 万 2 千円など合計で 6 億 4943 万 2 千円となっている。

（委員からの質問・意見）

【委員】前年度対比、都市ガスが増えているのは何故か。

【事務局】平成 27 年度に補正予算を計上し、今年度は実績に合わせて計上している。

【委員】最近、人を募集しても集まらなると聞いている。学校給食センターでは増員分の人は確保できているのか。

【事務局】学校給食センターも集まらない状況にある。現在 5 名の欠員である。

#### （4）学校給食における野菜の産地別導入状況について

（事務局からの説明要旨）

平成 25 年度、26 年度、新センターになってからの平成 27 年度の学校給食の野菜の産地別導入状況について説明。

地場産野菜の導入率は、平成 19 年度の基準値 55.7%と比較して、平成 25 年度 65.48%、平成 26 年度 63.46%と上昇傾向にあったが、平成 27 年度は 53.71%と前年度比 10 ポイント近く低下した。平成 27 年度は新センター稼働によりメニューが 1 品増え、和え物の提供が可能になったことから、年間を通しての野菜の使用量が増えているものの端境期の地場産野菜の供給が難しいことから導入率上昇には至らなかった。

野菜の年間使用量については、平成 26 年度 188,819kg に比べ平成 27 年度 259,207kg と 37%増加している。地場産野菜の年間使用量についても平成 26 年度 119,823kg から平成 27 年度 139,228kg と増加しているが伸び率は 16%に留まっている。北海道産まで枠を広げると平成 27 年度は前年度比 46,890kg、33%の伸び率となっている。

また、これまでも食材の調達にあたっては市内・十勝管内・道内・道外・国外の順に優先調達しているが、平成 27 年度の 3 月に国内産野菜の調達が困難になり、グアテマラ産の冷凍ブロッコリーを一度導入した。海外産の冷凍野菜の導入にあたっては、これまでの選定基準に「食品の安全性と品質を確保するシステム」SQFを加えられるよう選定基準を見直すなどして、安全性の確保や地元業者との連携を図りながら進めてきている。

（委員からの質問・意見等）

【委員】野菜を優先調達している事や 50%以上地場産を使用していることを DVD では説明したほうが良いのでは。肉・魚介類の導入率はどうか。

【事務局】施設見学者に対しては地場産野菜の優先調達や導入率について説明しているが、DVD では説明していない。平成 26 年度については、豚肉・鶏肉・牛肉とも地場産のものを 100%使用している。

【委員】平成 31 年度の目標 70%達成は難しいのではないか。

【事務局】使用量が多いので大変という認識を持っている。地元JAに協力をいただきながら進めていきたい。

【委員】資料中、野菜の並び順を使用量の多い順で、年度ごとも統一した方が見やすいと思う。

#### (5) 平成27年度学校給食アンケート結果について

(事務局からの説明要旨)

今年2月に、給食献立や摂取状況等の実態を把握するため、児童生徒や教員の意見等を聴取し、次年度以降の参考にすることを目的としてアンケートを実施した。

実施校としては、市内小中学校40校中、小学校6校・中学校3校、合計9校を抽出。小学校は3年生・5年生、中学校は2年生とし、学級担任である教員を加え928名にアンケート用紙を配布し、回収率は全体で92.2%となった。

主な回答としては、『給食が好きですか』の質問に対しては「好き」「どちらかという」と好き」と答えた児童生徒が74.0%、『給食を残さず食べますか』の質問に対しては、「毎日たくさん残す」「毎日少し残す」と答えた児童生徒は38.2%、逆に「時々残す」「ほとんど残さない」は61.3%、『野菜のおかずが増えたが、食べていますか』の質問に対しては、「全部食べている」と答えた割合は44.8%となった。

また、学級担任の主な回答として、『おかずが残る理由』について「苦手」「食べたことがない」と分析している割合が44.8%、『残食を減らす工夫』として「残さないよう声かけしている」「おかわりをするよう声かけしている」の取り組みがあげられた。

(委員からの質問・意見)

【委員】回収率が児童生徒より、学級担任が少ないのはなぜか。

【事務局】学校の忙しい時期と重なったためと思われるが、担任の意見を参考にしていきたい。

【委員】結果を見るとあまり給食に興味がないように思われる。

【事務局】結果を真摯に受けとめさせていただく。

【委員】DVDの盛り付けを見ると具材がほとんど入っていないが、指導しているのか。

【事務局】DVDは1年生のクラスということと、カメラが回って緊張もしていたのだと思う。盛り付け方については、栄養教諭配置校は栄養教諭が、他の学校は食育指導専門員が指導している。

【委員】給食を食べる時間が少ないと聞いているが、どうなのか。

【事務局】いかに限られた時間で給食を食べられるか、学校と指導室で協議してもらっている。

【委員】例えば小学校1年生であれば、食の細い子もいればたくさん食べられる子もいる。その中で栄養を摂る、楽しく食べることを担任は指導している。

【委員】新センターになって、ご飯は温かくなり、野菜も増え、1品多くなったが食器も増えて備品かごも増えたので、昨年度は準備・片付けに時間がかかり、食べる時間が短くなった。今年度は慣れたので、早く準備等ができるようになっている。

- 【委員】旧調理場と比べて変わらないと答えた数が中学校2年生で多いのは驚いた。
- 【事務局】見守り隊で子供たちに、給食はおいしいか聞いたところ、「あまりおいしくない」「野菜が多い」との声がかえってきた。
- 【委員】「変わらない」と回答した子どもは、舌が鍛えられていないと感じる。そこも給食の役割だと思う。野菜くずや残渣はどのように処理しているのか。
- 【事務局】野菜の下処理で出た野菜くずと、学校から戻ってくる残食は養豚業者に引き取ってもらっており、食物のリサイクルとなっている。
- 【委員】給食は食堂と違ってリサイクルできるので、続けてほしい。
- 【委員】給食の残飯の量は旧調理場と比べてどうなのか。
- 【事務局】旧調理場は、炊飯を委託していたのでご飯の残飯は業者に戻されていたが、新センターではセンターに戻ってくるのと、メニューが1品増えたことにより旧調理場のときより残飯の量は増えているが、比較はできない。
- 【委員】アンケートは、今年度もやるのか。
- 【事務局】項目を変えてやることを検討している。
- 【委員】地元食材を優先調達している等、センターの取り組みを示すようなアンケート内容にしてはどうか。
- 【事務局】検討する。
- 【委員】給食の1人あたりの配食量はどのように決めているのか。
- 【事務局】年齢による摂取基準に基づき配食している。
- 【委員】具体的に1人何mlとかお玉何杯とか指示しているのか。
- 【事務局】栄養教諭や食育指導専門員が給食指導時に周知している。
- 【委員】クラスによっては、食缶の中身を空っぽにして返そうと取り組んでいる所もある。
- 【委員】今後とも検証してほしい。

## 5. 小委員会

運営委員会終了時刻となったため、近藤会長より小委員会省略の提案があり、全会一致で不開催とした。

## 6. 閉会

## 7. 給食試食